

# Pro Tools HD 7.4 on Mac

## for Pro Tools!HD and Pro Tools!HD Accel Systems on Mac OS X 10.4 ("Tiger") Only

この書類には、Digidesign が推奨するバージョンの Mac OS X が起動する Macintosh システム上で動作する、Pro Tools HD 7.4 に関するユーザー・ガイドの訂正事項、互換性情報、既知の問題点、エラー・コード等が記載されています。

---

### 互換性

Digidesign は、Digidesign が動作確認を行ったハードウェア及びソフトウェア環境のみを互換 / 対応情報として提供しています。動作確認済みのコンピュータ、オペレーティング・システム、及びサードパーティ機器等に関する最新情報は、Digidesign の Web サイト ([www.digidesign.com/jp](http://www.digidesign.com/jp)) でご確認ください。

Mac Pro の Slot 4 へ HD カードをインストールする

Mac Pro のスロット 2 及び 3 へ HD カードをインストールのは分かりやすいですが、スロット 4 へのインストールには追加ステップが必要です：

Mac Pro の Slot 4 へ HD カードをインストールするには：

- 1 Mac Pro から全ての SATA ドライブ・トレイを取り除きます。
- 2 SATA トレイがあった場所にカードを動かします。
- 3 まず、奥にある PCIe スロットへカードのリアを配置します。
- 4 カードのフロントを、PCIe スロットとぴったり合うようにします。
- 5 SATA ドライブを元に戻します。
- 6 コンピュータのケースを閉じます。

#### データベース・ファイルの互換性

Pro Tools 7.x は新しい Digidesign データベースのファイル形式を必要とします。Pro Tools のバージョン 6.x で作成されたデータベース・ファイルは、Pro Tools 7.x の初回起動時に削除されます。検索速度を上げるために、使用されているドライブを再インデックスしてください。DigiBase データベースのインデックスに関する詳細は、*Pro Tools リファレンス・ガイド*をご覧ください。

DigiBase Pro のカタログ・ファイルは削除されませんが、アップデートする必要がありますのでご注意ください。Pro Tools の起動の際に、既存カタログの変換もしくは破棄を促すウィンドウが表示されます。

Mac OS 拡張 (大文字 / 小文字を区別、ジャーナリング) でフォーマットされたドライブへはレコーディングできません (Item #66749)

Pro Tools は、Mac OS 拡張 (大文字 / 小文字を区別) でフォーマットされたドライブへレコーディングできません。正しくレコーディングできるよう、Mac OS X の録音ボリュームを「Mac OS 拡張 (ジャーナリング)」にフォーマットしてください。

## UL5D ホスト・バス・アダプタと ATTO コンフィギュレーション・ツール

UL5D ホスト・バス・アダプタがシステムにインストールされている場合は、ATTO コンフィギュレーション・ツールを使用し、正しいドライバとファームウェア及び設定がなされていることを確認する必要があります。Pro Toolsのインストーラ・ディスクの ATTO Utilities フォルダに収められた Read Me ファイル（英語版）にインストラクションが記載されています。認可された ATTO ドライバのバージョンに関しては、Digidesignのウェブサイトをご覧ください。最新のドライバが必要な場合は、ATTO Technologies のウェブサイトからダウンロードできます。

---

## 確認されている問題点

以下に Pro Tools 7.4 の使用時に生じ得る問題点とその回避方法を記します。

### Pro Tools

メモリーロケーションのコメント欄の文字数増加 (Item # 83593)

Pro Tools7.3 以降では、メモリーロケーションのコメント欄で許容される文字数が増加しました。以前のバージョンの Pro Tools で Pro Tools 7.3 以降のセッションを開くと、258 文字を超えたテキストは、メモリーロケーションのコメント欄に表示されません。

バス経由でオーディオ・トラックヘルレーティングした際のメイン出力（ステム）の遅延 (Item #86709)

AOS（Aux Output Stem）可能なバーチャル・インストゥルメントにおいて、バス経由でオーディオ・トラックの入力へ接続されていると、そのメイン出力が揃わないことがあります。これは、セッション内で AOS ルーティングを作成、または AOS ルーティングを持つセッションを開いた際に起こります。この現象は、自動遅延補正をオン/オフにトグルすることで回避できます。

Video Satellite は、選択範囲が 1 秒以下の場合、ループ・プレイバックできない (Item #93743)

Video Satellite とともにループ・プレイバックをする際に、選択範囲が 1 秒以下になっていると、数回ループした後に停止、または Medeia Station 上に「現在 Pro Tools は再生できません」という旨のダイアログが表示されることがあります。この場合、選択範囲を 1 秒以上に設定してください。

遅延補正に関する修正 (Item# 97571)

以前のバージョンの Pro Tools では、“常時補正”モードの使用時に誤ったディレイを適用していることがありましたが、この問題は修正されました。“常時補正”モードとは、遅延補正が保留されていたトラックに遅延補正を適用できる機能のことを言います。遅延補正機能を使ってオーディオ・トラック上の正確なモニタリング・レイテンシを維持するためには、インターナル・ソースから Pro Tools へレコーディングする際に“常時補正”モードをオンに設定する必要があります。遅延補正に関しては、こうすることでディスク・トラックを Aux 入力トラックのように作用させます。“常時補正”モードをオンにするには、遅延補正表示がオンになった状態でミックス・ウィンドウに表示される [トラック補正インジケータ] を Start-Control-click (Windows) または Command-Control-click (Mac) します。

[RTAS Error Suppression (RTAS エラー抑制)] 有効時は、CPU 使用限度に達する可能性がある (Item #83343)

CPU 使用限度を 85% 以上で [RTAS Error Suppression (RTAS エラー抑制)] を有効にした場合、コンピュータがオーバーロードしてレコーディングができなくなる場合があります。[RTAS Error Suppression (RTAS エラー抑制)] を有効に設定しているときは、CPU 使用限度を 80% 以下に設定してください。

[RTAS Error Suppression (RTAS エラー抑制)] を有効にして、CPU 使用限度を高く設定していると、画面のリドローがスローダウンする (Item #82915)

[RTAS Error Suppression (RTAS エラー抑制)] を有効にして、CPU 使用限度を 85% 以上に設定すると、画面のリドローやバックグラウンド CPU タスクがスローになる可能性があります。RTAS Error Suppression を使用中にこれが起きた場合、プレイバックエンジン・ダイアログを開いて、CPU 使用限度を 5 ~ 10% 低くしてください。

インストゥルメント・トラックや Aux 入力に、ソフトウェア・インストゥルメントをインサートしても音が出ない (Item #65797)

ソフトウェア・インストゥルメントの中には、適切なハードウェア・インプットまたはMIDI アウトプットをアサインしないと音も出ず、再生もしないものがあります。これが起こった場合は、ハードウェア・インプットをインストゥルメント・トラックまたは Aux インプットに、MIDI アウトプットをインストゥルメント・トラックへ手動でアサインします。

176.4 kHz/192 kHz 状況下で、オーディオインターフェースが 5-7 枚目のカードに接続されている際の問題点 (Item #67475)

176.4 kHz and 192 kHz のサンプルレートは、最大で 4 枚の HD Accel または HD Process カードをサポートします。このサンプルレートにて作業する場合は、この最高値を超えるインターフェースは Pro Tools システムから除外される必要があります。

再構築するには：

- 1 コンピュータ及びインターフェースの電源を落とします。
- 2 5 枚目以降の HD カードに接続された DigiLink 及び I/O の loop sync と word clock を外します。
- 3 サポートされる範疇のインターフェースに対する loop sync と word clock の再構築を行いません。
- 4 コンピュータを起動して Pro Tools を立ち上げます。電源再投入後、Pro Tools システムを 176.4 kHz もしくは 192 kHz で使用できます。

レガシー・ペリフェラルの使用 (Item # 68381)

幾つかの I/O コンフィギュレーションでは、Hardware Setup 設定画面にてレガシー・ペリフェラルを使用すると設定した後も、I/O 設定画面にそのレガシー・ペリフェラルが表示されない場合があります。これらは一度 Pro Tools を終了し、Pro Tools を再起動した後に表示されます。

レガシー・ペリフェラルの設定変更 (Item #69070)

ハードウェア・コンフィギュレーションの中には、本来使用が可能であるにも関わらず、Pro Tools を 48 kHz のサンプルレートで使用するとレガシー・ペリフェラルが認識されず、ペリフェラル設定が Hardware Setup 画面で実行できない場合があります。この問題が発生した場合は、いったん Hardware Setup 画面でレガシー・ペリフェラルの使用を取り消し、再度レガシー・ペリフェラルを使用するよう設定してください。

Mac Pro の省エネルギー設定の最適化 (Item #63888)

Mac OS 10.4 上での Pro Tools パフォーマンスを最適化するには、“可能な場合はハードディスクをスリープさせる”のチェックをはずします。

ワークスペース・ブラウザ内で、ある特定ファイルのエラスティック分析を計算 / クリアできない (Item #89026)

エラスティック・オーディオによりサポートされるファイル・フォーマットの拡張子が付いているにもかかわらず (.wav または .aif ) Pro Tools のワークスペース・ブラウザがエラスティック分析の計算またはクリアを実行できない場合がごく稀にあります。ブラウザ・メニューの [エラスティック分析を計算] 及び [エラスティック分析をクリア] がグレイアウトします。このような場合、ファイルが実際に非サポートのフォーマットである可能性があります。ファイル・フォーマットを確認するために、ワークスペース・ブラウザのフォーマット欄をご覧ください。QuickTime などの WAV または AIFF 以外のファイル・フォーマットが示されている場合は、エラスティック分析の計算またはクリアを実行することはできません。とはいえ、これらの非サポート・ファイルはテンポに合わせて視聴することも、セッションヘインポートすればエラスティック化することもできます。

Pro Tools 5.1 ~ 6.9 フォーマットでセッションを保存した際にリージョン・ループが欠落する (Items #90102, 90079)

5.1 ~ 6.9 でセッションを保存すると、「リージョン・ループが失われます」という旨のダイアログが表示されます。これを回避するためには、Pro Tools の下位バージョンでセッションを保存する前に、[リージョン] > [ループ解除] > [フラットに] を実行します。

エラスティック・オーディオをモノフォニックまたは X-Form アルゴリズムで使用した際、オーディオ・ファイル内にドリフトが発生する (Item #96151)

エラスティック・オーディオを使用する際にオーディオ・リージョン内にドリフトが発生することがありますが、これはリージョンがモノフォニックまたは X-Form アルゴリズムを使用してどの程度伸縮されるかに依存します。トランジェント情報を持つ素材にエラスティック・オーディオを使用し、かつドリフトを回避したい場合は、ポリフォニックまたはリズムミック・アルゴリズムをご使用ください。

異なるテンポの Reason ソングを開いた後、ティックベース・トラック上のオーディオ・リージョンが、正しいテンポで再生されない (Item #96710)

セッションと異なるテンポの Reason ソングを開くと、ティックベースのトラック上にあるオーディオ・トラックが正しいテンポで再生されないことがあります。コンダクターまたはマニュアル・テンポ入力経由でテンポ変更を施すと、リージョンが正しく再生されます。

Beat Detective の [ 小節 | 拍マーカーを生成 ] でテンポマップを作成すると、レンダー・モード内のリージョン・グループがオフラインになる (Item #97993)

Beat Detective の [ 小節 | 拍マーカーを生成 ] でテンポ・マップを作成すると、レンダー・モードのリージョン・グループがオフラインになることがあります。オフラインになったリージョンに編集を加え、エラスティック・オーディオをレンダーからリアルタイムに変更し、再度レンダー・モードへ戻すことでオンラインになります。

リアルタイム・エラスティック・オーディオ・トラックの波形表示 (Item #98343)

エラスティック・オーディオのリアルタイム・プロセッシングを使用している場合、使用しているアルゴリズムに関わらず、Pro Tools にはヴァリスピードの波形が表示されます。これは、全てのエラスティック・オーディオ・プロセッシングが、リアルタイムに処理され、波形自体はどのようにサウンドするかは予測であることに起因します。レンダー・モードへ切り替えることで、使用しているアルゴリズムによってレンダーされた場合の実際のオーディオの様相を視認できます。

オーディオをインポートすると、IXML メタデータを持ったステレオ・インターリーブ WAV ファイルが 2 つの個別のモノ・トラックに分割される (Item #98841)

オーディオをインポートすると、IXML メタデータを持ったステレオ・インターリーブ WAV ファイルが 2 つの個別のモノ・トラックに分割される場合があります。ワークスペースを使用して、ファイルを編集ウィンドウまたはステレオ・トラック上に直接ドラッグしてください。

セッションのテンポでインポートされたエラスティック・オーディオ用「デフォルト・インプット・ゲイン」(Item #96725)

[ 初期設定 ] > [ プロセッシング ] ページにある [ エラスティック・オーディオ ] > [ デフォルトインプットゲイン ] は、セッション・テンポでインポートされたエラスティック・オーディオ用の設定です。ワークスペース内の [ コンテキスト視聴 ] がオン、またはプロセッシング初期設定ページ内の [ デスクトップからのドラッグ&ドロップはセッション・テンポに合わせる ] がオンに設定されていない限り、この初期設定オプションは機能しません。

エラスティック・オーディオを含んだリージョン・グループは、そのリージョン・グループ自体にエラスティック機能が適用されていない場合、エラスティックとして認識されない (Item #92770, #97107)

リージョン・グループ内にエラスティック・オーディオが含まれているが、リージョン・グループ自体の最外層においてエラスティック・オーディオ操作がなされていない場合は、そのリージョン・グループはエラスティック・オーディオとして認識されません。新規トラック作成に用いられる場合、トラックは自動的に [ エラスティック・オーディオ 有効 ] には設定されず、リージョン・グループ内のエラスティック・オーディオは、そのセッション用のデフォルト・エラスティック・オーディオ・プラグインを使用してレンダーされます。これは、リージョン・グループにワーブ・マーカーを追加して、強制的にエラスティック・リージョンと認識させることで回避できます。または、[ エラスティック・オーディオ 有効 ] に設定したトラックを最初に作成した後に、リージョン・グループを追加します。

[ ソース・メディアから統合 ] オプションを使用してエラスティック・オーディオをインポートできない (Item #96404)

[ ソース・メディアからコピー ] を使用して、エラスティック・オーディオ・トラックへインポートしてください。

#### AudioSuite とリージョン・グループ (Item #64410)

オーディオ・ファイルとリージョン・グループでは、AudioSuite プラグインの処理がわずかに異なります。オーディオに関しては、“リージョンリスト参照”を選択して、“プレイリストに使用”を選択したりすると、AudioSuites プロセスがセッション内に現れるオーディオ・ファイルの全コピーへ適用されます。しかし、リージョン・グループを選択中に、ターゲットが AudioSuites プラグイン・ウィンドウ内の“リージョンリスト参照”にセットされていると、Pro Tools はリージョン・グループをプロセス可能なオーディオと認識せず、“オーディオが選択されていません”というエラーが現れます。これは、実際にトラックの中で使用されるまで、リージョン・グループが“オーディオ”ユニットとして認識されないために生じます。

セッション内にあるすべてのリージョン・グループのコピーに、瞬時に AudioSuite を適用するには、下記の通りにします。

- 1 プロセスするリージョン・グループを選択します。
- 2 リージョン・メニューから [すべてのグループ解除] を選択します。グループ内の全要素が選択されたままの状態になります。
- 3 AudioSuite プロセスを実行します。
- 4 リージョン・メニューから [再グループ] を選択します。

プロンプトが表示されたら、セッション内のリージョン・グループの全コピーへ AudioSuite を適用する場合は“修正”を選択し、選択されたリージョン・グループのみに適用する場合は“コピー”を選択します。

#### 復旧されたセッションを開いた後のプレイバックエンジンへのアクセスについて (Item#54319)

セッションファイルの自動バックアップを使い保存されたファイルを開くときは、一度新しく名前をつけ、保存しなおしてください。そのままですとプレイバックエンジンにアクセスできないことがあります。

#### アドミン権限の無いユーザーが、QuickTime ムービーを含むセッションを開いた時に、そのセッションを再生できない問題 (Item #47053)

もしアドミン権限がなく、Quick Time への承認が無いユーザーが、QuickTime ムービー付きのセッションを開いた場合は、「Quick Time ムービー・ファイルが無く再リンクしますか」というダイアログが表示されます。再リンクウィンドウでは、そのムービー・ファイルを見つけ再リンクしたかのように「f」が、依然再生することはできません。再生できるようにするには、Quick Time ファイルへの承認をすることになります。

#### 選択されている多数のリージョンをコンパクト化する。(Item #40541)

大きいセッションで、多数選択されているリージョンをコンパクト化する際、以下のようなエラーが表示されます。“Assertion in Cmm\_Interval.cpp, line 103.”もしこのエラーが特定のセッションのみで繰り返し起きるようであれば、[ファイル]>[セッションのコピーを保存]を選択して、別名で別のハードディスクをコピーしなおしてから再度行ってください。

#### タイムスタンピングとデストラクティブ・パンチ用トラック (Item #67054)

デストラクティブ・パンチ用トラックの作成後もセッション・スタートを変更できるため、そのトラックのオリジナル・タイムスタンプは正確ではない可能性があります。正確なタイムスタンプが必要な場合は、リージョン・リストからタイムスタンプ機能を使用して、作成されたリージョンを再度タイムスタンプします。

#### MP3 Codec は著作権保護されたファイルをエクスポートしない (Item #68985)

Pro Tools 7.3 以降における新しい MP3 Codec は、著作権保護されたファイル属性をエンコードする機能はありません。これはフラウンホーファーの新しい Codec 制限です。

#### Pro Tools 7.x で 48kHz セッションを MP3 へバウンスすると、44.1 kHz の MP3 ファイルが生成される (Item #72617)

320kbps 以外のビット・レートで、変換クオリティを [最良 (最も長時間の処理)] と設定して MP3 へバウンスすると、44.1 kHz のファイルが生成されます。これはエンコーダの既知の制限です。

QuickTime オーディオ・フォーマットの中にはインポートできないものがある (Items #58792, 73064)

Apple Lossless または AMR オーディオで圧縮された QuickTime ムービーのオーディオは、Pro Tools へインポートできません。QuickTime Pro またはその他のアプリケーションを使用して、インポートする前に、オーディオを別のオーディオ・フォーマットへ変換してください。

Apple Lossless Codec は QuickTime ムービーへのバウンスをサポートしていません (Item #75224)

Pro Tools 7.3 以降は Apple Lossless オーディオ・コーデックをサポートしていません。[QuickTime ムービーへバウンス] のオーディオ圧縮ダイアログからこれを選択すると、使用可能なオーディオを含まないムービーが生成されます。

## DigiBase

巨大な DigiBase カタログの変換には数時間を要する場合があります (Item #77636)

過去の極端に大きいカタログ (10,000+ 参照ファイル) を変換するには、数時間を要する場合があります。このため、作業を妨害しない程度に、適宜カタログを変換するようお勧めします。カタログが変換されるまで、Pro Tools の起動時に毎回プロンプトが表示されますが、変換準備が整うまでこれらのプロンプトを無視できます。一度変換されると、この問題は再現しません。

AAF シーケンスや MXF ファイルのタイムコード・フォーマットが 30 fps 以上の場合、DigiBase のフレームレート欄に異なるレートが表示されます (Item #72538)

AAF シーケンスが 30 fps 以上のフレームレートの MXF メディア・ファイルを参照している場合、DigiBase では正しいフレームレートの半分の数値が表示されます。例えば、59.94 fps のファイルは 29.97、50 fps のファイルは 25 fps と表示されます。セッション設定ウィンドウのタイムコード 2 ルーラーは、フル・フレーム・レートを表示するために使用することができます。

タスクウィンドウ内に “File Is Busy (-47)” というエラーが表示されます (Item #22832)

管理権限を持っていないファイルを削除しようとする、タスクウィンドウ内に “File Is Busy (-47)” とエラーが表示され、ファイルを削除できません。「読み/書き」権限を持っていないファイル、またはディレクトリを削除することはできません。

Out of Memory (-108) エラー (Item #27391)

ディスク・スペースが残り僅か、あるいは全くないボリュームの索引をアップデートしようとする、 “Out of memory (-108)” エラーが発生します。

## プラグイン

X-Form AudioSuite の視聴パフォーマンス (Item #96728)

Polyphonic モードで Formant スイッチが入った状態で視聴をすると、フォルマント・プロセッシングは、視聴ループが 2 周目になるまで作用しません。さらに、Polyphonic モードで視聴中にフォルマント修正が行われると、スロー・プロセッシングによるオーディオ・ドロップアウトが発生します。

スタンドアロンの Xpand! インストーラ・ディスクから、Xpand! プラグインをインストール済みのユーザーは、Pro Tools 7.4 のインストーラ・ディスクから Xpand! を再インストールする必要はありません (Item #78805)

Pro Tools 7.4 インストーラ・ディスクの第一階層に収められているバージョンの Xpand! インストーラは、600 MB のサンプル・アーカイブを書き換えることなく、オリジナル Xpand! CD インストーラの場合と異なる場所へ配置します。プラグインを再インストールする必要がないため、Xpand! プラグインは、Pro Tools 7.4 用にアップデートされていません。

7.x 対応プラグイン及び追加オプション・ソフトウェアのデモ・モード

Digidesign 7.x プラグイン及び Pro Tools 7.x 追加オプション・ソフトウェアには、期間限定のデモ版は含まれません。その代わりに、これらプラグイン及び追加オプションのデモ版を使用するには、iLok USB キー及びデモの iLok ライセンスが必要です。デモ・ライセンスの取得を希望される際は、Digidesign ウェブサイト ([www.digidesign.com](http://www.digidesign.com)) の、其々の製品ページにて Demo ボタンをクリックしてください。

SignalTools は 192kHz TDM 及び RTAS をサポート (Item #79188)

サンプルレートが 192 kHz のセッション内で、SignalTools の TDM 6.1-、7.0- 及び 7.1 チャンネル・バージョンを使用すると、DAE -7077 エラーを引き起こします。低バッファサイズでポップまたはクリック・ノイズを発生する場合は、512 またはそれ以上の HW バッファサイズ設定で RTAS バージョンの SignalTools をご使用ください。

SignalTools Lissajous Meter のグラフィック・ノイズ (Items #73263)

プラグインへオーディオをフィードすると、Lissajous Meter にグラフィック・ノイズが現れます。プレイバックエンジンで選択されたプロセッサ数が最大でない場合、RTAS バージョンの SignalTools では TDM バージョンとは異なり、後光のようなグラフィック・ノイズが生じます。

HW バッファサイズが 4096 及び 8192 の場合、Click TDM プラグインは音が鳴りません (Item #79313)

拡張シャーシが存在する場合、HW バッファサイズが 4096 及び 8192 だと Click TDM プラグインの音は鳴りません。代わりにプラグインの RTAS バージョンをご使用ください。

## ファイルとディスク・マネージメント

フォルダ階層を保持して [セッションのコピーを保存] されたセッションを開くと、ファイルが見つからなくなる (Item #74454)

フォルダ階層を保持する機能は、複数ボリュームに分割されたメディアを含むセッションが、フォルダ階層を保持しながら、システム間を簡単に移動できるようにデザインされています。メディア・ファイルを自動的に発見するためには、各ボリュームの第一階層に、Audio Files または Video Files を含むセッション名のフォルダを、手動でコピーまたは作成してください。あるいは、現在のロケーションで見つからないファイルを手動で再リンクします。

同じファイル名が複数存在するフォルダの階層を保持しながら、セッションのコピーを保存すると、正確に再リンクしない (Item #79868)

フォルダ階層を保持にチェックを入れてセッションのコピーを保存すると、手動再リンク時に、同名のファイルが正確に再リンクしない可能性があります。セッションのコピーを開くときは、正しいファイルをロケートするために、自動で再リンクを使用してください。[手動で再リンク] を使用してセッションを開き、それでもオフラインのファイルがある場合は、プロジェクト・ブラウザから [オフラインで再リンク] を選択して、残りのファイルを手動で再リンクします。

## コントロール・サーフィス

D-Control 及び D-Command のファームウェアをダウンロードする (Item #46015, 46990 and #58102)

D-Control または D-Command のファームウェア・アップデートをダウンロードしている際に、メインユニットのモニターセクションのノブは触らないでください。または、ファイルをコンピュータへ移動しないでください。ファームウェアのダウンロードに失敗する可能性があります。

D-Control または D-Command からプラグイン・パラメータをリセットする (Item #62263)

標準の Pro Tools ショートカット・キーを使ったり、パラメータにマップされているエンコーダを触ると、D-Control や D-Command のプラグイン・パラメータをリセットできます。Windows では、Alt キーを押しながらリセットしたいパラメータ用のエンコーダを触ります。Macintosh では、Option キーを押しながらリセットしたいパラメータ用のエンコーダを触りません。

D-Control 及び D-Command でのズーム用ショートカット

現在、D-Control と D-Command は下記をサポートしています：

選択範囲をズーム・イン/アウトするには：

- Alt(Windows) または Option(Macintosh) - [Zoom] スイッチを押します。

ズーム・アウトしてセッション全体を表示するには：

- [Zoom] スイッチを 2 回押します。

コントロール・サーフィス上での SignalTools メーター (Item #74340)

SignalTools RMS, VU, BBC, Nordic 及び DIN メーターは、コントロール・サーフィス上で見ると、不適格なディケイ・タイムを表示します。コントロール・サーフィスへ Peak メーターを報告するだけの Peak, VENUE 及び Peak + RMS の場合は影響しません。影響を受けるのはディケイ・タイムのみで、アタック・タイムには影響しません。プラグイン・ウィンドウでは、全てのメーター・タイプが正確に表示されます。

ICON フェーダーの再キャリブレート時は、Pro Tools のトランスポートを止める必要があります (Item #78074)

D-Command 及び D-Control のフェーダーを再キャリブレートする場合、Pro Tools のトランスポートは停止する必要があります。1つまたはそれ以上のフェーダーにキャリブレーションが必要な場合は、以下のようにしてください: プレイバックをストップし、Utility モードへ入り、TEST、FADER、RECAL を順番に押します。フェーダーを再キャリブレートしたら、Utility モードを終了します。

## MIDI

MIDI レコーディング中に、[ ノート待ち ] 機能が ReWire からの MIDI 入力に反応しない (Items #90724, #97444)

MIDI レコーディングを演奏する際、[ ノート待ち ] 機能が ReWire から受ける MIDI に反応しないことがあります。ReWire アプリケーションから生成される MIDI をレコーディングする場合、手動でトランスポートをスタート、または[ ノート待ち ] の代わりに [ カウントオフ ] を使用する必要があります。

リアルタイム MIDI プロパティが有効に設定されていて、さらにダイアトニック・トランスポーズを使用するように設定された MIDIトラックにセッション・データをインポートした場合、トランスポーズはセッション内の最初のキーを元に行われます (Item #81666)

複数のキー (調)と、リアルタイム・プロパティのキー・トランスポーズが有効に設定された MIDI またはインストゥルメント・トラックを含むセッションから、セッション・データをインポートすると、トランスポーズはセッション内の最初のキーをベースに行われます。これは、ダイアトニック・トランスポーズが各キーに対して正しくなる場所で、リアルタイム・プロパティをオン/オフ切り替えると補正できます。

バーチャル・インストゥルメントで MIDI クリックを使用する際の問題点 (Item #43057)

バーチャル・インストゥルメントで MIDI クリックを使用する際、Wait for Note が有効になっているとクリックは演奏されません。また、初めのクリックは演奏されません。この問題を回避するには、クリックを別の MIDI 機器にアサインするか、Click プラグインを使用する必要があります。

## 同期とマシンコントロール

シリアル・タイムコードでの録音 (Item #64636)

Tascam DA-98 のサーヴォ・ロック・ビットにより、実際にはサーヴォ・ロックされていないが、DA-98 がサーヴォ・ロックされていると Pro Tools が判断することがあります。これにより、Pro Tools が DA-98 から生成されたシリアル・タイムコードにロックする際に、同期のオフセットが生じる可能性があります。現在、この問題は改善されていますが、もしこの問題が出た場合は、[ タイムコードにロックする前の遅延 ] でフレームを 10 まで増加させます。

SSL コンソールと Soundmaster コントローラーを併用すると画像のアップデートが間に合わない場合があります (Item #52394)

Soundmaster コントローラーに接続された SSL コンソールにて巻き戻し及び早送りを行なうと、Pro Tools 上の画像のアップデートが間に合わない場合があります。この問題は Soundmaster の設定に起因している可能性があります。Soundmaster コントローラーの Self Goto Rate 値がゼロに設定されている事を確認して下さい。(詳細に関しては Soundmaster の関連書類を参照して下さい)

## ビデオ

### ドロップ・フレームによるビデオ・キャプチャの失敗 (Item #82895)

一定以上の CPU がロードされているセッションの場合、確実なビデオ・キャプチャをできない可能性があります。ビデオをレコーディングする必要がある限り、バーチャル・シンセやヘビーなタイムライン・オートメーションなどの大きな CPU タスクは無効にしてください。ビデオ・プレイバックに影響せずに、以前の CPU タスクを復元することができます。

### サポートされない QuickTime ビデオ・フォーマット (Items #72933, 72956, 72958, 72961)

QuickTime でサポートされるビデオ・フォーマットの中には、ProTools ではサポートされないものがあります。これらには .DivX, .flc, .m4v 及び .3gp フォーマットが含まれています。これらのフォーマットをインポートしようとする、エラーの発生やインポートの失敗を引き起こします。

### シャッフル・モードで、Macintosh Finder からのビデオ・ドラッグは正確に機能しません (Item #78451)

シャッフル・モードのときにデスクトップから編集ウィンドウへビデオ・ファイルをドラッグすると、必ずセッション・スタートにそのビデオは配置され、既存のビデオ・リージョンを上書きします。

### QuickTime コーデックの中には、Avid Mojo から出力すると変形してしまうものがあります (Items #73328, 73332, 73334, 73344)

Pro Tools 7.3 以降では、大部分の標準 QuickTime ファイルを Avid ペリフェラルから出力できますが、DV25 及び h.264 フォーマット・ストリームだけは完全にはテストされていません。レガシー QuickTime コーデックの中には、Avid Mojo から出力すると変形してしまうものもあります。これらに含まれるものは：

- ・ 非圧縮 .avi ファイル
- ・ 32-bit ムービーを除く、非圧縮 .mov ファイル
- ・ グラフィック、アニメーション、シネパックまたはビデオ・コーデックを使用する QuickTime (.mov) ファイル

これらのフォーマットはデスクトップでプレイバックした場合には、正しく表示されます。

### QuickTime ムービー・トラックの編集密度が高くなると、Pro Tools の UI 速度が落ちる可能性があります (Item #77720)

1 つまたはそれ以上の QuickTime ビデオ・トラックの編集が複雑になるにつれ、Pro Tools のレスポンスが遅くなる場合があります。複雑に編集された QuickTime クリップとともに作業している場合は、Pro Tools のレスポンスは低減します。この場合は、一度 QuickTime ムービーへバウンスしてから、そのバウンス・ファイルをインポートしてください。

### MPEG-1 及び MPEG-2 が編集点でフリーズする (Item #79182)

MPEG-1 及び MPEG-2 ビデオのエディットは、公式にはサポートされていません。この問題が起こった場合は、プレイバックをビデオ・ウィンドウへ切り替える、またはサードパーティ製アプリケーションを使用して、ムービーをサポートされるフォーマットへ変換してください。サードパーティ・アプリケーションによって MPEG-1 または MPEG-2 からオーディオを除去することで、この問題が解決する場合があります。

### 多重化された MPEG-1 及び MPEG-2 ムービーのオーディオがインポートされず、バウンスされたムービー内で聞こえない (Item #76063)

他の QuickTime フォーマットと違い、MPEG-1 や MPEG-2 ムービーは、オーディオとビデオを単一の多重化トラックへ記憶します。Pro Tools は、これらのタイプのムービーのビデオからオーディオを分離させることはできません。結果として、MPEG-1 または MPEG-2 ムービーかたオーディオをインポートすることはできません。また、ソース・ムービーとして MPEG-1 や MPEG-2 ムービーを使用して [QuickTime へバウンス] する場合は、そのムービーからのオリジナル・オーディオはバウンスされたムービーの中に現れます。(Pro Tools での作業中に聞こえていないとしても) MPEG-1 または MPEG-2 ファイルからオーディオをインポートするためには、サードパーティ製アプリケーションを使用して MPEG ストリームを“分離”してください。

### QuickTime へバウンスする際は、既存のムービー名でバウンスしない (Item #76768)

[QuickTime へバウンス] コマンドを使用する場合は、既存のムービーと同じ名称を使用するとバウンスに失敗します。各バウンスにはユニークな名称を使用する、または同名でバウンスする前に (既存ファイルと置き換えるのではなく) ドライブから以前のムービーを削除するのが最善です。

NTSC 及び PAL 間をスイッチする際、ビデオ・トラックのビデオ・フォーマットがセッションのビデオ・フォーマットとマッチしない (Item #77328)

NTSC から PAL へ、PAL から NTSC へスイッチする場合、新規で作成された Avid ビデオ・トラックが間違っただビデオ・フォーマットで表示される場合があります。このトラックに録音を試みると、「セッションのフレームレートは PAL または NTSC のいずれかに互換している必要があります」という旨のエラーが表示されます。セッション設定ウィンドウ内で、NTSC から PAL へ、または PAL から NTSC へビデオ・フォーマット・セクタを切り替えることで、この問題は解決します。

最後にレコードされたビデオファイルが消去できない (Item #58642)

Pro Tools はセッションが開いている状態で、最後にレコードされたビデオファイルを消去する事はできません。セッションを閉じた後にファイルを消去して下さい。

Pro Tools で認識されないムービー (Item#46792)

OS 9 からムービーを移行する際、Mac OS X QuickTime や DV ムービーは、.mov や .dv といった拡張子を失うことがあります。そのような拡張子を失ったムービー・ファイルが Pro Tools セッション内に存在する場合、それらのムービー・ファイルは正確に認識されず、結果として開かない事があります。回避策として、まずセッションを閉じ、手で .mov や .dv といった拡張子を加え、その後再度セッションを開いてください。

## Avid との相互運用性 /DigiTranslator

サンプルレート変換を使用して、Pro Tools から 59.94 ドロップフレーム AAF をインポートすると、Avid Media Composer 上でメディアがオフライン表示される (Item #81960)

Pro Tools から、サンプルレート変換とともに 59.94 ドロップ・フレームで AAF をエクスポートし、Avid MediaFiles フォルダ (Avid MediaFiles/MXF/1) に直接 MXF メディアを書き出すと、メディアは共有ストレージ環境内でオフラインになる可能性があります。メディアをオンラインにするには、Avid システム上で、メディア・ディレクトリをマニュアルでリフレッシュします。

MXF メディアを含む 59.94 ノンドロップ・フレーム AAF をインポートしたときに、Avid 内でメディアがオフラインになる (Item #81961)

Pro Tools から 59.94 ノンドロップ・フレームで AAF をエクスポートし、Avid MediaFiles フォルダ (Avid MediaFiles/MXF/1) に直接 MXF メディアを書き出すと、メディアは共有ストレージ環境内でオフラインになる可能性があります。メディアをオンラインにするには、Avid システム上で、メディア・ディレクトリをマニュアルでリフレッシュします。

## ローカリゼーション一般

英語以外の文字を持つ AAF/OMF シーケンスをインポートすると、文字化けや再リンク不能を引き起こす (Items #95851, #95857, #96279)

Mac ベースの Pro Tools 7.3.1 システム (またはそれ以前) から、英語以外の文字を持つファイルまたはリージョンを含んだ AAF/OMF シーケンスをエクスポートすると、Avid Media Composer、XP ベースの Pro Tools システムまたは Pro Tools 7.4 システム (Windows または Mac) へ正しくインポートできない場合があります。逆に、全ての Pro Tools 7.4 (またはそれ以降) システムからエクスポートされた、英語以外の文字を持つ AAF/OMF シーケンスは、Mac ベースの Pro Tools 7.3.1 (またはそれ以前) システムへ、正しくインポートできない可能性があります。ファイルをリンクするためには、[ 手動で検索、再リンク ] を選択して、[ ファイル ID で見つける ] 以外のオプションを全て外します。リージョン名は文字化けする場合があります。

アジア地域版の Pro Tools は英語 OS 上では起動できません (Item #59794)

コンピューターの OS が英語であると日本語版、韓国語版、及び中国語版の Pro Tools を起動する事ができません。この状況下で起動をすると下記のメッセージが表示されます: " To run Japanese version of Pro Tools, the Finder's system preferences International settings must be set to Japanese. Please refer to Digidesign's documentation to know more information. "この問題を回避するには Finder の言語設定を正しい言語に設定し直す必要があります。

---

## エラー・メッセージ

### Pro Tools 起動時の -5000 (Unknown Error) エラー (Item #36130)

複数のパーティションのあるシステムで、それぞれのパーティションに違うバージョンの Interlok Pace がインストールされていると Pro Tools 起動時に “ Unknown -5000 error ” が発生します。全てのパーティションに同じ Pace のコンポーネントをインストールする事により、この問題は回避出来ます。

### 再生中の -6031 エラー (Item #32637)

複雑な MIDI やオートメーション・データを持つセッションを再生中に -6031 というエラーが生じたら、ハードウェア・バッファサイズを増やしてください。また再生を一旦止め、セッションを保存して閉じ、Pro Tools を終了する必要があります。そして再度 Pro Tools を立ち上げ、セッションを再び開いて作業を再開してください。

### -6042 エラー

-6042 エラーが頻繁に発生する場合はシステム使用状況ウィンドウの [ PCI 使用状況 ] を確認して下さい。このゲージがピークに達している場合は、PCIバスをリセットして下さい。PCIバスをリセットするには、全てのトラックを非アクティブにし、再生します。この状態でも 6042 エラーが発生し続ける場合は、Pro Tools を再起動し、プレイバックエンジン・ダイアログ開き、DSP チップ毎にかかるボイス数処理を、この設定上から減らして下さい。

### プレイバック中にプラグインをアクティブ及び非アクティブに切り替える際に表示される -6074 エラー (Item #55049)

容量の大きいセッションにて、全てのプラグインをアクティブ及び非アクティブに切り替えると、Pro Tools 内で以下のエラーが発生する場合があります。 “ The engine DSP ran into the TDM2 deadband. Too many I/Os to the TDM2 chip (-6074). ” この問題を回避するには、アクティブ及び非アクティブに切り替えるプラグイン数を減らして下さい。

### Pro Tools!HD Accel を 32-bit PCI 拡張チャージで使用した場合の Error -6074 (Item #41705)

Pro Tools!HD Accel システムを 32-bit 拡張チャージで使用した場合には、ベスト・パフォーマンスを得る為にプレイバックエンジンを 5 DSP, medium voices あるいはそれ以下に設定します。プレイバックエンジンを 6 DSP, max voices に設定した状態で、48 kHz あるいは 192 kHz ( またはそれ以下 ) の間でセッションを切り替える際、サンプルレートへの切り替えが起こる場合には、この DAE error -6074 を引き起こし、Pro Tools アプリケーションの終了に繋がります。これはクラッシュではありませんが、単なる Pro Tools による偶発的な強制終了です。

### FireWire Drive 上に録音している場合、あるいは単一ファイルのファイル・サイズが 2 GB に到達した場合の DAE Error -9073 (Item #42611)

FireWire ドライブへ録音中、2 GB のファイル・リミットに到達した時、本来表示されるべき “ Recording has been terminated because a disk is full ” というディスク上に空きスペースがなくなったため録音を継続できない旨のアラートの代わりに DAE -9073 が表示されます。このエラーは悪いものではなく、データの損失を示すわけでもハードドライブに問題があるわけでもありません。

### FireWire Drive に録音している場合、あるいは単一ファイルのファイル・サイズが 2 GB に到達した場合、これ等が何れも該当しない DAE Error -9073

-9073 が発生した場合は、デジデザインのウェブサイト [digidesign.com](http://digidesign.com) のアンサーベースにてその原因及び回避方法を確認して下さい。

### DAE Error -9128

サンプルレートが高く ( 96kHz 以上 )、また複雑なオートメーションを伴う、もしくは多数の RTAS プラグインが使用されているセッションを再生中に、この -9128 エラーが生じる場合は、ハードウェア・バッファサイズを 512 以上に設定すると回避できる場合があります。

### DAE Error -9131 (Item #92747, #20843)

GUID でパーティションされたドライブでは、OS X での起動時にサード・パーティション以上へレコーディングできません。GUID の代わりに Apple Partition Map を使用して、オーディオ・ドライブをパーティションしてください。

- または -

Pro Tools では、UNIX File System (UFS) フォーマット・ドライブへの録音 / 再生はできません。

DAE Error -9132 (Item #32397)

ハードウェア・バッファサイズ設定を最高値に設定しているにも関わらず、[ ディスクヘバウンズ ] 中に -9132 エラーが生じたら、セッション上に録音用のトラックを作成し、目的のトラックから内部バスを適切にアサインして、ディスクに録音してください。結果的にバウンズしたものと同じオーディオ・ファイルを使うことができます。

DAE Error -9155

ハイ・サンプルレート (96 kHz 以上) の複雑なオートメーションを伴ったセッションを再生中に、この -9155 エラーが生じる場合は、ハードウェア・バッファサイズを 512 以上に設定すると回避できる場合があります。

DAE Error -9735

Pro Tools がタイムラインの終点に到達した際、またはその論理的限界に達した場合、Pro Tools を最大タイム・リミットより長く継続して再生していると、このエラーが生じます。Pro Tools の最大タイムリミットは、セッションのサンプルレートに依存します。詳しくは、「Pro Tools リファレンスガイド」をお読みください。

---

## Pro Tools ガイドの修正

### 新機能ガイド

PN 9320-56790-01 REV A 08/07 及び PN 9320-56791-01 REV A 08/07

以下は、Pro Tools HD 7.4 新機能ガイド及び Pro Tools LE and M-Powered 7.4 新機能ガイドにおける訂正事項です。

#### エラスティック・オーディオ

Pro Tools HD 7.4 新機能ガイド及び Pro Tools LE and M-Powered 7.4 新機能ガイドの 5 ページ第 3 パラグラフに、「エラスティック・オーディオは、ループの操作、演奏の修正、リミキシング、サウンド・デザインや特殊効果、映画音楽やポストプロダクションなど様々なワークフローで役立ちます」とありますが、以下の通りに訂正します。

訂正:

「エラスティック・オーディオは、ループを使った作業、演奏の修正、リミキシング、サウンド・デザインや特殊効果及び映画音楽の様々なワークフローで役立ちます」

#### 映画音楽及びポストプロダクション

Pro Tools HD 7.4 新機能ガイド及び Pro Tools LE and M-Powered 7.4 新機能ガイドの 6 ページに記載されている、映画音楽とポストプロダクションに関するセクションに「エラスティック・オーディオを使ってプルアップまたはプルダウン率を調整できる」と記載されていますが、これは誤りです。このセクションを以下の通り訂正します。

訂正:

セクションのタイトル 「映画音楽」

本文 「映画のシーンに対するスコアを作成する場合、エラスティック・オーディオを使って、音楽を必要な長さに合わせることができます。テンポ変更を使って、アッチェラントやリタルダントの効果を得ることもできます」



複数のキューを持つセッションでテンポ変更を使用すると、それによりタイムライン上にある別のキューのタイムコード位置に影響する可能性がありますので、ご注意ください。



エラスティック・オーディオはプルアップ及びプルダウンのワークフローには推奨されません。セッション設定ウィンドウのリアルタイム・プルアップまたはプルダウンを使用するか、DigiRack Time Shift または X-Form Audio Suite プラグインに含まれるプラグイン設定を使用します。

## Varispeed

*Pro Tools HD 7.4 新機能ガイド*及び *Pro Tools LE and M-Powered 7.4 新機能ガイド*の 20 ページの Varispeed プラグインに関して、「ポストプロクシオン・ワークフローに役立つ」と記載されていますが、これは誤りです。以下の通り訂正します。

訂正：

「テープのような速度変更の効果を得るには、Varispeed プラグインを使用して時間と音程の変更をリンクします。Varispeed プラグインには、プラグイン特定のコントロールはありません。」

